

学科名	コンサートイベント科
コース名	コンサート制作コース
授業科目	コンサートプロダクト3
必選	必
年次	2年次
実施時期	前期
種別	実習
時間数	270
単位数	9
担当教員	森永直樹
実務経験	有
実務経験職種	マネージャー
授業概要	<p>&lt;コンサート制作コース&gt;</p> <p>市場調査、ヒットチャート研究などマーケティングを行い、アーティストやジャンルによる客層を把握して、効率的なプロモーション方法を研究します。</p>
到達目標	<p>2年次は、スキルアップを図るため外部のコンサート会場を使用した本番実習を行う。各公演では現存のチケット流通やメディアに向けて情報を発信し限りなくコンサート・イベントの現場に近い環境下で実習を行う。1年次よりもコンサート・イベントの企画や、ブッキング、プロモーションや運営のコミュニケーションの精度を上げ集客目標の達成やお客様や出演アーティスト、現場スタッフの満足度を上げる。</p>
授業方法	<p>夏のライブイベントなどでの外部のコンサート会場を使用した実習を行う事により現場に近いコンサート実習を実践的に学びます。各セクションとの連携や外部のメディア企業や協賛企業との交渉を通じてコミュニケーション能力の向上させます。</p>
成績評価方法	<p>* 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。</p> <p>* 授業内容の理解度を確認するために実施する。</p>
履修上の注意	<p>授業時数の4分の3以上出席しないものは評価しない。実習やゼミで一度行っただけでは、自分に身に付くはずはないので必ずメモを取る事。そのメモは授業などで使うノートではなく、携帯に便利な小型のメモ帳を推奨する。メモの取り方の注意は、後日自分で確認した時に確実に理解出来るように心掛ける。あとは分からない事、自信がない所は積極的に質問してその場で解消する事。</p>
教科書・教材	<p>随時、資料等配布</p>

授業計画	
第1回	サマーライブ準備：【チーム編成】①本部②制作・企画③運営④宣伝⑤協賛⑥経理の組閣の実施する
第2回	サマーライブ準備：出演アーティストの選出とブッキングのプライオリティ決めブッキングの実施する
第3回	サマーライブ準備：各セクションで準備を進める（本部・制作企画、運営、宣伝、協賛、経理）
第4回	サマーライブ準備：各セクションで準備を進める（本部・制作企画、運営、宣伝、協賛、経理）
第5回	サマーライブ準備：各セクションで準備を進める（本部・制作企画、運営、宣伝、協賛、経理）
第6回	サマーライブ準備：各セクションで準備を進める（本部・制作企画、運営、宣伝、協賛、経理）
第7回	サマーライブ準備：各セクションで準備を進める（本部・制作企画、運営、宣伝、協賛、経理）
第8回	サマーライブ準備：各セクションで準備を進める（本部・制作企画、運営、宣伝、協賛、経理）
第9回	サマーライブ準備：各セクションで準備を進める（本部・制作企画、運営、宣伝、協賛、経理）
第10回	サマーライブ準備：各セクションで準備を進める（本部・制作企画、運営、宣伝、協賛、経理）
第11回	サマーライブ準備：各セクションで準備を進める（運営のシミュレーション）
第12回	サマーライブ準備：各セクションで準備を進める（運営のシミュレーション）
第13回	サマーライブ仕込み：外部会場での会場準備、リハーサル、運営シミュレーション
第14回	サマーライブ本番：外部会場での本番運営、本番実施し実践的な理解を深める
第15回	サマーライブ反省会：本番を終えての振り返り、次回のイベントに向けての改善点を考える

学科名	コンサートイベント科
コース名	PAコース
授業科目	コンサートプロダクト3
必選	必
年次	2年次
実施時期	前期
種別	実習
時間数	270
単位数	9
担当教員	中里哲也・小峰建
実務経験	有
実務経験職種	舞台音響業務
授業概要	<p>&lt;コンサートPAコース&gt;          大型のミキサーやデジタルミキサーの扱いも習得し、ミキシング技術、本番のオペレートを習得します。</p>
到達目標	<p>デジタルコンソールのしくみを理解し、バンドに対応した多チャンネルコンソールのしくみが理解できるようになる。ネットワークを利用したデジタル音声伝達の仕組みを理解できるようになる。ラインアレイスピーカーのしくみを理解し、安全に考慮した仕込みができるようになる。スピーカーチューニングや音場補正等環境に応じたシステム構築ができるようになる。外部ホールを使用し本番実習を行い実践的なコンサートPAを実施する。</p>
授業方法	<p>1年次で得た技術、知識をもとに、即戦力となるPAスタッフを目指す実習。デジタルコンソールのしくみとネットワークオーディオの概念、システム構築ができるようになること。ラインアレイスピーカーシステムのしくみと大規模のPAシステムの構築が理解する。片柳記念ホールでの実習だけではなく外部のホールを使用した本番実習を行い、より現場に近い環境で実習する。</p>
成績評価方法	<p>* 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。          * 授業内容の理解度を確認するために実施する。          * グレードテストを行う。</p>
履修上の注意	<p>授業時数の4分の3以上出席しないものは評価しません。実習やゼミで一度行っただけでは、自分に身に付くはずはないので必ずメモを取る事。そのメモは授業などで使うノートではなく、携帯に便利な小型のメモ帳を推奨する。メモの取り方の注意は、後日自分で確認した時に確実に理解出来るように心掛ける。あとは分からない事、自信がない所は積極的に質問してその場で解消する事。</p>
教科書・教材	随時、資料等配布

授業計画	
第1回	1年次復習：セッティング反復練習、技術確認ができる
第2回	1年次復習：セッティング反復練習、技術確認ができる
第3回	実践的P A 機材研究①：デジタルミキサーを理解する
第4回	実践的P A 機材研究②：デジタルミキサーを理解する
第5回	実践的P A 機材研究③：ラインアレイスピーカーを理解する
第6回	実践的P A 機材研究④：ラインアレイスピーカーを理解する
第7回	実践的P A 機材研究⑤：エフェクター・周辺機器を理解する
第8回	実践的P A 機材研究⑥：エフェクター・周辺機器を理解する
第9回	トータルセッティング実習：ハウス・モニター・ステージ・ライブレコーディングができる
第10回	トータルセッティング実習：ハウス・モニター・ステージ・ライブレコーディングができる
第11回	サマーライブ準備：プランニング、仕込み、オペレート、チューニングができる
第12回	サマーライブ準備：プランニング、仕込み、オペレート、チューニングができる
第13回	サマーライブ仕込み(ZeppHANEDAなど)：外部会場でのセッティング、リハーサルができる
第14回	サマーライブ本番(ZeppHANEDAなど)：外部会場での本番、撤収まで安全に終わることができる
第15回	サマーライブ反省会：本番を終えての振り返り、次回のイベントに向けての解決方法を考える

学科名	コンサート・イベント科
コース名	コンサート照明コース
授業科目	コンサートプロダクト3
必選	必
年次	2年次
実施時期	前期
種別	実習
時間数	270
単位数	9
担当教員	島立 麦人
実務経験	有
実務経験職種	バンケット照明
授業概要	1年次に学んだ舞台照明の基礎知識と技術を踏まえてより実践的な内容を学ぶ。昨今のコンサート業界で実際に用いられている機材に学内で触れることで、コンサートの現場へ就職した際に対応できる能力を身に付ける。学内外の施設を有効活用し、整った環境の中で舞台照明に必要な正しい技術の向上を図る。授業のアーカイブ化を実施することで、学内で学んだ内容を自宅で復習できる環境を提供する。
到達目標	照明機材の内部構造を理解しメンテナンスや修理ができる程度の技術を身に付ける。ライティングデザインや本番実習を繰り返し経験することでコンサート全体の仕事を理解し、一つのイベントを学生のみ力で作りあげる。年間の実習を通してコンサート業界で働く姿勢を身に付け、卒業後に業界内で活躍できる人材を育成することを最終目標とする。
授業方法	学内外の施設を活用しライブハウスやホールでのイベントを想定した準備～仕込み～本番～バラシまでの作業を実践的に学ぶ。色彩理論やライティングデザイン、安全衛生法等の必要知識を学ぶ講義形式の授業を実施。
成績評価方法	提出課題 30% 定期的な課題の提出率、提出内容で評価。 グレード試験 30% 試験の可否 授業成果 40% 授業への取り組む姿勢を評価
履修上の注意	全第一で授業を実施。重量物や昇降物がある為、声を出すことが非常に大切になる。照明スタッフは高所に上がることもあり。理由のない遅刻や欠席は認めない。挨拶をしっかりと行うことが大切。 グレード試験や小テストを行い理解度を確認する。携帯電話は使用禁止。教室内は機材がある為、飲食は禁止とする。授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	○舞台・テレビジョン照明：テキストを基に資料を作成。授業内で学生へ配布 ○ステージ・PA・照明用語辞典：毎回の授業で活用 ○オンライン授業動画：自宅での復習に活用

授業計画	
第1回	1年次の復習実習（仕込み・シュート・ピンスポット） 目標：仕込みからシュートまでの手順を時間内に終わることができる。ピンスポットの扱い方を再確認する。
第2回	3Dシミュレーションソフトについての講義 目標：3Dシミュレーションソフトの知識を学び、操作方法を習得する。
第3回	照明操作卓についての講義 目標：照明操作卓の操作手順を学びデータのプログラミングができる。
第4回	仕込み図面についての講義 目標：ライブハウスやホールでの仕込みを実施するための図面を作成できるようになる。
第5回	学内ライブ実習①(仕込み、シュート) 目標：限られた時間内で仕込み、シュート作業を終える。
第6回	学内ライブ実習②(資料作成) 目標：ライブの本番実習に向けての仕込み図やフェーダー表等の資料作成を学び、完成させる。
第7回	学内ライブ実習③(テクニカルリハーサル、リハーサル) 目標：テクリハ、リハーサルを通して、ライティングデザインの修正、最終調整を行い本番に備える。
第8回	学内ライブ実習④(本番実習) 目標：本番、バラシ作業を通して担当セクションのスキルアップを目指す。
第9回	照明操作卓についての講義 目標：音楽に対してどのように照明演出をデザインするか、講義形式の授業を通して正しい知識を身に付ける。
第10回	学外ライブ実習①(資料作成、施設調査) 目標：学外施設を使用しての実習を通し、より現場に近い環境で技術を向上させる。その為の仕込図の作成、ホール資料の見方を理解し資料作成を完成させる。
第11回	学外ライブ実習②(ライティングデザイン) 照明卓を使用した明かり作り実習を通してムービングライトのライティングデザインを学び、理解する。
第12回	学外ライブ実習③(テクニカルリハーサル、リハーサル) 目標：テクリハ、リハーサルを通して、ライティングデザインの修正、最終調整を行い本番に備える。使い慣れない施設の中での明かりの修正作業を身に付ける。
第13回	学外ライブ実習④(本番実習) 目標：本番、バラシ作業を通して担当セクションのスキルアップを目指す。有観客でのイベント実施を通して学生たちの責任感や達成感を体験させる。
第14回	学外ライブ実習⑤(反省会) 目標：学外ライブ実習の映像を基に照明的観点から反省と検証を行い、次回の取り組み方を考察する。
第15回	前期総括ミーティング、前期総復習 目標：前期の総括を行い、振り返る。前期で習得した知識と技術を再確認し、不明点があればコース全体で確認を行う。

学科名	コンサートイベント科
コース名	舞台コース
授業科目	コンサートプロダクト3
必選	必
年次	2年次
実施時期	前期
種別	実習
時間数	270
単位数	9
担当教員	田城佳子
実務経験	無
実務経験職種	
授業概要	<p>&lt;コンサート舞台コース&gt; CADソフトを使用しての舞台図面作成や舞台進行などを習得します。</p>
到達目標	<p>スキルアップを図るため外部のコンサート会場を使用した本番実習を行う。各セクション、出演者サイド、会場スタッフとのコミュニケーションの精度を上げ搬入から本番・撤収までを安全に終える事を目標とする。自ら考えて行動しエンタテインメント業界で即戦力として活躍できる人材となる事を目標とする。</p>
授業方法	<p>コンサート舞台スタッフとしての必要な知識のスキル・アップをはじめ、プランニングや関連業務のスピード・アップと精度を上げます。舞台スタッフとしての基本業務を確実にこなし更なる向上を目指します。外部のコンサート会場を使用した実習を行う事により現場に近いコンサート実習を実践的に学びます。各セクションとの連携を通じてコミュニケーション能力を養います。</p>
成績評価方法	<p>* 積極的な授業参加、協調性、授業態度によって評価する。 * 本番実習での協調性、臨機応変さにて評価する。</p>
履修上の注意	<p>授業時数の4分の3以上出席しないものは評価しない。実習やゼミで一度行っただけでは、自分に身に付くはずはないので必ずメモを取る事。そのメモは授業などで使うノートではなく、携帯に便利な小型のメモ帳を推奨する。メモの取り方の注意は、後日自分で確認した時に確実に理解出来るように心掛ける。分からない事、自信がない所は積極的に質問してその場で解消する事。</p>
教科書・教材	<p>資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。</p>

授業計画	
第1回	1年次の復習①：山台、ライザー作製、各セクションの仕事内容を復習することができる。
第2回	1年次の復習②：Drセットの組み方、GtAmp、BaAmpのセッティング、電源の引き方を復習することができる。
第3回	サマーライブに向けて図面確認舞台機構を理解する。
第4回	サマーライブに向けて道具プラン思案・道具帳作成・特殊効果思案、舞台セット図を思案、特殊効果の種類を理解することができる。
第5回	サマーライブに向けて（道具プラン検証）：道具のサイズ、重量計算を理解することができる。
第6回	サマーライブに向けて（ホール下見、質問事項思案）：ホール下見時に、何を確認するべきかを理解し、会場サイドに確認することができる。
第7回	サマーライブに向けて（タイムテーブル、進行表作成）：アーティスト資料をもとにタイムテーブル、進行表の作成ができる。
第8回	サマーライブに向けて（立ち位置図面、楽器セッティング図作成）：アーティスト資料をもとに立ち位置図面、楽器セッティング図の作成ができる。
第9回	サマーライブに向けて（プロダクションミーティング）：作成資料の説明、質問事項を考え、プロダクションサイドに確認することができる。
第10回	サマーライブに向けて（楽器転換思案）：各バンドのセッティング図をもとに、スムーズに転換ができるよう、流れを理解することができる。
第11回	サマーライブに向けて（仕込練習・転換練習・テクリハ）：実際に校内にて仕込、転換、テクリハを行い、問題点を検証することができる。
第12回	サマーライブに向けて（積み込み準備）：仕込段取りを踏まえ、積み込み手順を考えることができる。
第13回	サマーライブ仕込：仕込段取りを理解し、各コース安全に搬入から仕込を終えることができる。
第14回	サマーライブ本番：タイムテーブルに沿って、リハーサルから本番・撤収まで、安全に終えることができる。
第15回	サマーライブ反省会：本番を終えての振り返り。問題点を出し合い、次回のイベントに向けて解決方法を考える。



学科名	コンサート・イベント科
コース名	イベント企画コース
授業科目	コンサートプロダクト3
必選	必
年次	2年次
実施時期	前期
種別	実習
時間数	270
単位数	9
担当教員	小山慶
実務経験	有
実務経験職種	コンサート・イベント音響
授業概要	<p>&lt;イベント企画コース&gt;  目的のためには何を行い、どういった結果を出すのか、イベント企画の根本を学習します。</p>
到達目標	<p>スキルアップを図るため学内外の様々な人たちとコミュニケーションをとり、発想力やプレゼンテーション力、コミュニケーション力を磨く。産学協同プロジェクトや地域連携のイベント参加を通じて社会人として通用するコミュニケーション能力や人間力を身に付ける。将来、イベント業やエンタテインメント業界で即戦力として活躍できるような人材となる事を目標とする。</p>
授業方法	<p>"6W2Hを元に、「なぜ」いつ、どこで、何を、どのようにするのか？ イベントの企画・運営を反復実践する。</p> <p>学内のみならず学外の会場にて公官庁・企業案件に携わることによりイベント制作について実践的に学ぶ。イベント制作に必須となるPCスキル（Word ,Excel ,Powerpoint ,Photoshop ,Illustrator）を実践形式で学ぶとともに、社会人の一員としてのコミュニケーションスキル、ビジネスコミュニケーションツール（電話、メール、オンラインミーティングツール）のスキルを習得する。</p>
成績評価方法	<p>* 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。</p>
履修上の注意	<p>授業時数の4分の3以上出席しないものは評価しない。実習やゼミで一度行っただけでは、自分に身に付くはずはないので必ずメモを取る事。そのメモは授業などで使うノートではなく、携帯に便利な小型のメモ帳を推奨する。メモの取り方の注意は、後日自分で確認した時に確実に理解出来るように心掛ける。分からない事、自信がない所は積極的に質問してその場で解消する事。</p>
教科書・教材	<p>資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。</p>

授業計画	
第1回	新歓イベントの準備：企画内容のプレスト
第2回	新歓イベントの準備：企画内容のプレゼンテーション、プライオリティーの決定、チーム編成
第3回	新歓イベントの準備：セクションごとに準備を進める
第4回	新歓イベントの準備：読み合わせ・シミュレーション・修正を行う、広報活動の実施
第5回	新歓イベントの準備：設営、運営・進行リハーサルの実施
第6回	新歓イベント本番：設営、イベント運営を実施
第7回	新歓イベント反省・総括：本番を振り返り、次回のイベントに向けての改善点を見出す
第8回	サマーイベント準備：企画内容のプレスト
第9回	サマーイベント準備：企画内容のプレゼンテーション、企画の決定、チーム編成
第10回	サマーイベント準備：出演者ブッキング等、宣伝ツールの作成、協賛企業の獲得、空間演出の決定
第11回	サマーイベント準備：進行台本、運営マニュアルの作成
第12回	サマーイベント準備：読み合わせ・シミュレーション・修正を行う、広報活動の実施
第13回	サマーイベント準備：設営、運営・進行リハーサルの実施
第14回	サマーイベント本番：本番運営、撤収まで安全に終える。本番実施し実践的な理解を深める
第15回	サマーイベント反省・総括：本番を振り返り、次回のイベントに向けての改善点を見出す